

1. 第三者評価結果概要表

作成日 平成20年8月8日

【評価実施概要】

事業所番号	2873400762		
法人名	社会福祉法人 宝寿会		
事業所名	認知症対応型共同生活介護事業所 ゆうゆう		
所在地	〒679-2415 兵庫県神崎郡神河町福本1241-3 (電話) 0790-32-3333		
評価機関名	社会福祉法人 兵庫県社会福祉協議会		
所在地	神戸市中央区坂口通2-1-18		
訪問調査日	平成20年7月10日	評価確定日	平成20年8月8日

【情報提供票より】(平成20年6月20日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 17 年 10 月 1 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	14 人	常勤 1人, 非常勤 13人, 常勤換算	13人

(2) 建物概要

建物構造	鉄骨	造り
	2階建ての	1~2階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	1階35,000円・2階40,000円	その他の経費(月額)	20,000 円	
敷金	有(円)	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有りの場合 償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	150 円	昼食	300 円
	夕食	450 円	おやつ	100 円
	または1日当たり		1,000 円	

(4) 利用者の概要(6月20日現在)

利用者人数	17 名	男性	4 名	女性	13 名
要介護1	6 名	要介護2	5 名		
要介護3	3 名	要介護4	3 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 87 歳	最低	64 歳	最高	97 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	公立神崎総合病院・藤川医院
---------	---------------

【第三者評価で確認されたこの事業所の特徴】

神崎郡の神河町の山中にある。ホームの建物は法人施設の敷地内の一番奥の山側にある。ホーム内部からガラス越しに外部の山々の四季が十分に満喫でき、鹿が顔を見せに来るなど自然環境に恵まれたところにある。畑が玄関前にあり、利用者が気軽に行ける。夏野菜が種類多く実っており当日も食卓を賑わしていた。ホームの開設から3年経ち、利用者は個人のペースで生活し、職員とも馴染みの関係にあり、自由に過ごしている。地域の3カ所のグループホームと勉強会を持っており、地域密着型サービスの事業所として介護サービスの充実に職員一同取り組まれるよう期待したい。

【重点項目への取組状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:第三者4) グループホームの会議で職員は改善について各自できることの取り組みについて話し合いを持っている。外出支援の回数も、職員の数を増やすことにより、前回よりも増えてきている。また、引継ぎについても印鑑を押すことにより、職員間の連携が図れており、少しずつ結果が現れている。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:第三者4) 管理者からグループホーム会議で自己評価について説明し、ユニット毎で取り組み、リーダーがまとめるようにしている。前回の取り組みと同様に、全職員の意識を高め、各自がしっかりと評価を行えるよう、更なる取り組みを期待したい。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:第三者4,5,6) 運営推進会議は4ヵ月に1回開催し、ホームから日常生活の様子などをパワーポイントを使用し報告しているが、外部からの意見や要望などはあがっていない。メンバーも地域の方の参加は多いが、さらに自治会や老人会などの連携を深め、ホームの運営やサービスの質の向上に向けて、2ヵ月に1回の開催頻度で地域に密着した運営推進会議となるような体制づくりが望まれる。
	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:第三者7,8) 家族への報告は月1回利用者の心身状況の記録や金銭管理、個々の日常生活の写真やメッセージを入れて家族に送付している。面会時には、家族から不満や要求について確認を行っているが、現状では不満や苦情の声はあがっていない。ホームに対する意見は家族はなかなか言いづらいので、家族会や無記名のアンケートの実施などの積極的な働きかけが望まれる。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:第三者3) 年2回の町の美化デイには職員が2名協力している。夏祭りでは、職員と利用者と共にたこ焼きなどして、地域の方と交流ができています。文化祭では利用者が習字・手芸や生花などの作品を出展し、利用者は見学を楽しみにしている。

2. 第三者評価結果票

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	法人の理事長がグループホームの開設にあたって、「地域の皆様のお役に立てる施設」を目標としており、法人の理念と共にグループホーム独自で職員で検討し、「地域の方に支えられ歩んでいこうゆうゆうで」の理念をつくっている。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	月1回グループホーム会議を2ユニット合同で開催しているが、会議前に各リーダー、サブリーダー、主任が集まり、理念について考え方の統一を図っている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	年2回神河町で美化デイがあり、職員2名が参加協力をしている。夏祭りでは、出店でたこ焼きなどして、職員と利用者が共に参加し、地元の方と交流ができています。文化祭では、利用者の習字・手芸や生花等の作品を毎年出展し、利用者は見学に出かけています。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び第三者評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	グループホームの会議で職員は改善について各自できることの取り組みについて話し合いを持っている。外出支援の回数も、職員の数を増やすことにより、前回よりも増えてきている。また、引継ぎについても印鑑を押しことにより、職員間の連携が図れており、少しずつ結果が現れている。		

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>会議は4ヵ月に1回開催している。地域からは地域包括支援センター職員と民生委員は多数の参加はあるが、他団体へ積極的に働きかけるまでには至っていない。</p>		<p>運営推進会議の意義について検討し、双方の意見が出るような働きかけが望まれる。</p> <p>また、開催頻度についても2ヵ月に1回の開催が望まれる。</p>
6	9	<p>市町との連携</p> <p>事業所は、市町担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>町のグループホーム担当者から、グループホームに関する情報や指示等は受けている。また、管理者は町の介護認定審査会のメンバーに就任している。</p>		<p>役場からの一方的な働きかけのみではなく、グループホームからも積極的な問題提起などを行い、双方の良好な関係をつくることが望まれる。</p>
4. 理念を実践するための体制					
7	14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>グループホームから月に1回利用者の心身状況の記録や金銭管理、個々の日常の様子が分かる写真やメッセージを入れて家族に郵送している。また、グループホームに家族が訪問した時に声かけをして、利用者の状態について話している。</p>		
8	15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>家族が訪問された時やイベント時に、家族にホームに対する意見を聞いたりしている。その際、感謝の言葉は聴くが、現状では不満や苦情の声はあがっていない。</p>		<p>ホームに対する意見は家族はなかなか言いづらいことなので、家族会や無記名のアンケートの実施・意見箱の常設など家族等の意見が反映されるような積極的な働きかけが望まれる。</p>
9	18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>職員が辞める時は、利用者に説明した上で、離職の2週間前から新人と共に、利用者のケアを行うよう配慮している。職員の異動は広報誌に掲載し、家族にも分かるように配慮している。</p>		


第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新人に理念、介護の大切なところを説明し、月1回のホーム会議では勉強会を行っている。法人の職員全体研修にも参加している。研修は夜間に開催しているので、夜勤者には後日に資料配布と説明で対応している。町主催の年4回のケアステーション研修で実務や認知症にかかわる研修に自発的に参加し、認知症ケア専門士の資格を取得している職員もいる。		
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	町内にある3カ所のグループホームが持ち回りで、日常の様子を情報交換したり、地域密着型サービスについての勉強会を行っている。ただし、参加職員は決まったメンバーとなっている。		限られた職員の参加だけではなく、すべての職員が参加できる体制づくりが望まれる。 また、調査時に、他のグループホームの利用者との交流も望んでいるとの管理者の声もあったので、今後の取り組みに期待したい。
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居を希望されている方には体験的に見学してもらい、利用者と共に過ごす場を提供している。利用希望の本人が来られない時は、家族の方に雰囲気を感じる機会づくりをしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	利用者と共に過ごし支えあう関係 職員は、利用者を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、利用者から学んだり、支えあう関係を築いている	開設して3年経ち、職員と利用者の馴染みの関係ができてきており、忌憚のない会話をしている。利用者が職員に甘えたり、食事の味付けについて教えてもらう場面も見られた。職員は、昔の慣わしや村の歴史、畑の作物の育て方などを日々の生活や会話の中で学んでいる。		

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>入居時のアセスメントシートや家族、介護支援専門員の情報などで利用者の意向を把握している。また、日々の会話の中で一人ひとりの思いを掴むように努め、職員間で検討している。</p>		
2. より良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>利用者がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>介護計画の本人・家族の希望欄には、それぞれ記載事項がある。日々のケース記録や主治医の意見、ケアカンファレンスでの検討項目を参考に作成しており、個々の状態に応じた介護計画を作成している。</p>		
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、利用者、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>症状の安定などにより、利用者の状態変化が見られない場合は、3ヵ月に1回の見直しを6ヵ月に1回の見直しに変更している。</p>		<p>介護計画を現状に沿ったものにするためには、日々の観察が必要であり、利用者の変化がない場合でも、予防的な意味合いも含めて定期的な見直しを行うことが望まれる。</p>
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	<p>事業所の多機能性を活かした支援</p> <p>利用者や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている</p>	<p>事業所独自の多機能性は確認できなかった。</p>		<p>家族からの旅行についての要望に対して検討の意思がある。また、職員の中には認知症ケア専門士の資格を取得している者もあり、その資格を活かした利用者家族への研修や在宅向けの認知症ケアの指導等、できることからの取り組みを期待したい。</p>

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. より良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	<p>かかりつけ医の受診支援</p> <p>利用者や家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>利用者のかかりつけ医に家族と共に受診することが基本となっているが、緊急時は家族が同行できない場合は家族の同意を得て、24時間体制が取れている協力医院を受診している。協力医院は併設特別養護老人ホームの主治医でもあり、距離的にも10分位の場所にある。</p>		
19	47	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から利用者や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	<p>今までに90代の利用者が家族の希望で看取りを行い、老衰で亡くなられた例がある。医療処置が発生しない場合は、終末期の看取りも可能であり、家族にも説明ができています。</p>		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報取り扱いをしていない</p>	<p>利用者への言葉かけは研修を行い、特に配慮している。個人の記録は事務所奥の鍵のかかるロッカーに保管している。日々の記録は事務所でパソコンに入力している。職員は守秘義務について誓約書を提出している。</p>		
21	52	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>利用者は食事時以外自分のペースで生活している。習字、浴衣縫い、マッサージ機の使用、リビングで昼寝をしたり、職員と話しをするなど自由に、思い思いに過ごしている。</p>		

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
	22	54	<p>食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている</p>		
	23	57	<p>入浴を楽しむことができる支援</p> <p>曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している</p>		<p>利用者の入浴に関する意向や希望を聞き取り、それらを踏まえた対応を検討されることが望まれる。</p>
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
	24	59	<p>役割、楽しみごと、気晴らしの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている</p>		
	25	61	<p>日常的な外出支援</p> <p>事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している</p>		
(4) 安心と安全を支える支援					
	26	66	<p>鍵をかけないケアの実践</p> <p>運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる</p>		<p>グループホームの建物はガラス戸や窓が透明で、リビングから玄関や外周が見えるつくりとなっている。そのため、日中鍵をかけずに支援ができるよう職員や他の利用者の協力を得ながら、鍵をかけないケアの検討が望まれる。</p>

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	<p>災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日頃より地域の人々の協力を得られるよう働きかけている</p>	<p>年2回防災避難訓練を行っている。1回は消防署の協力で行い、もう1回は併設の特別養護老人ホームの訓練時に行っている。今年度は地震を想定した訓練を行い、昼間と夜間も採り入れた訓練を実施しているが、地域との連携までは行っていない。</p>		<p>地域の民家とは離れているが、地域と協同で避難訓練等を行えるよう、運営推進会議や近所の交番などに積極的に働きかけていくことが望まれる。</p>
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	<p>栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>	<p>献立は1週間単位で職員が利用者の希望を取り入れながら作成し、食べる量や水分摂取量を毎回記録している。食べる量は月1回体重を量り、参考にしている。水分補給は朝起きてから夜の睡眠までこまめに取れるよう配慮している。献立表もバランスのとれた内容である。</p>		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	<p>居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>玄関、リビング等共用空間は天窓やガラス戸が大きくとられ、明るく外の景色や様子が一目瞭然と季節感を味わえる。また、リビングにマッサージ機が置かれ、利用者が交代で利用している。その横の畳の間では浴衣を縫われたり、車椅子の利用者がテーブルでできる昼食の準備を手伝ったり、生活の場の雰囲気が感じられる。</p>		
30	83	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、利用者や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>畳の部屋は3部屋あり、思い思いに部屋づくりがされている。個室の面積が広く、ゆったりしており、家族も居室で泊まることができるようになっている。</p>		<p>全体的に持ち込みが少ないので、家族に依頼し利用者の使い慣れたものを持ち込むなどその人らしく過ごせる場所づくりを今後も進めていくことが望まれる。</p>

 は、重点項目。